



渋沢栄一と養育院 はじめの1歩

宮本孝一 老年学情報センター

櫻園通信 63 令和3年1月
東京都健康長寿医療センター
養育院・渋沢記念コーナー
連絡先: 老年学情報センター

1872 (明治5) 年 営繕会議所発足。共有金による公共事業開始。営繕会議所の附属機関として養育院創立。

1873 (明治6) 年 渋沢栄一、大蔵省を辞職して実業界へ。

1874 (明治7) 年 渋沢栄一、東京府知事より営繕会議所の共有金取締を委嘱。

1875 (明治8) 年 営繕会議所は東京会議所に改名。

1876 (明治9) 年 会議所廃止。養育院の運営は東京府営に。渋沢栄一は東京府より養育院事務長に任命される。

1879 (明治12) 年 組織再編で事務長は院長に改名。これにより渋沢栄一は養育院院長に。

渋沢栄一が(昭和六年)十一月に亡くなったあと、十二月に社会事業団体による故渋沢子爵追悼講演会が開かれました。
このとき演者の一人清浦奎吾伯爵は、渋沢栄一が「自分が社会事業に関与することになったのは、深く思索をして計画した結果でなく、偶然なんだ」とよく語っていたことを紹介しています。
(*1)

さらに、共有金(江戸幕府による窮民救済のための積立金)を管理する組織「会議所」で管理者に就いたため、会議所管轄の養育院の運営にも関わることになった。これが渋沢栄一が社会事業に関わるようになる始まりだったと講演で話しています。

では、渋沢栄一が営繕会議所の運営(共有金の運用)に関わる経緯はどのようなものだったのでしょうか。
東京商工会沿革始末(東京商工会残務整理委員編纂)(*2)に次のように書かれています。カタカナと一部の漢字をひらがなにしました。

東京会議所は道路橋梁修繕事務の外に養育院事務、共同墓地事務、瓦斯灯及街灯事務、商法講習所事務を管理処分したるにつき、委員は皆その事務の煩擾(わづわしい)ほど乱れる(にして)整理完全せざるを憂ひ、且共有金原資の漸次減少して余分なきに至るを憂ひ、府知事に推薦するに府

下有志者才幹(才能、腕前)ある者某々等を委員に依嘱せられんことをもつてしたるに、府知事はその推薦を納(受け入れること)れ、明治七年十一月をもつて渋沢栄一等に共有金取締の事を囑托し、その後翌明治八年四月をもつて此諸氏を会議所の委員に任したりき。

東京会議所の仕事は煩雑で混乱。運営する委員では手が回らない。事業費の原資である共有金(七分積金)も減る一方で会議所運営停止も時間の問題。そこで東京会議所の委員たちは東京府にいる有能な人材を何人か選び、会議所の運営に加えてもらうよう東京府知事大久保一翁に相談。久保一翁は会議所の申し出を了解。会議所に共有金取締の囑託員として新たに任命された三人のうち一人が渋沢栄一。

国家官僚を辞職し実業家に転身して
まだ一年目の渋沢栄一。会議所の委員
に推薦され、東京府知事大久保一翁に
東京会議所の運営を任せられます。

引用した「渋沢栄一伝記史料」第十
二巻では同じページに続けて「会議所
何」という記事があり、注として**明治
七年十一月東京会議所共有金取締トナ
リ、同月十七日始メテ新場橋際東京会
議所ニ出勤ス**と付記されています。

明治七年一月一七日。渋沢栄一、
東京会議所に初出勤。

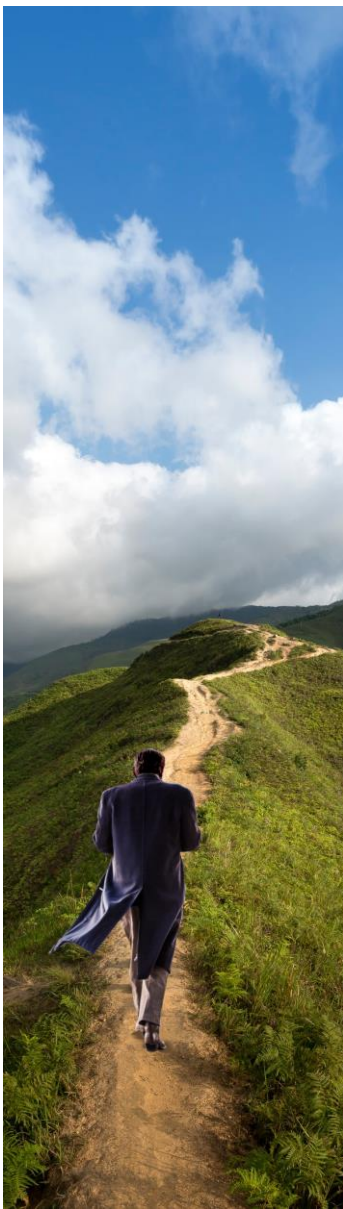
渋沢栄一の社会福祉事業の第一歩は
ここから始まりました。このとき渋沢
は、自分が実業界よりも長く養育院院
長職や、全国的な社会事業の振興に取
り組むことになるとは思いませんかつ
たでしょう。

渋沢栄一自身の言葉としても私が
**東京市の養育院に従事するやうにな
りましたのは明治七年でございます**
た*3と会議所の共有金取締就任が養
育院運営に関わるそもそもの始まり
と語っていたことが記録に残ってい
ます。

さて、一九二九（昭和四）年の楽
翁公百年祭の講演で、渋沢栄一（当
時八十九歳）が気になる一言を言っ
ています。

**共有金取締を申付けられるより前に、
私は養育院の事業を引受けて微力を
致すことになつて居りましたが、***4

これはどういうことでしょう。
会議所運営を監督することになり、
たまたま会議所の付属施設として養
育院があつたからなりゆきでその運
営にも関わるようになった・・・と
いうことではなさそうですね。
では、共有金取締就任以前の、
どの段階で誰との間で「渋沢栄一が
養育院の事業を引き受ける」と決
まっていたのでしょうか？
謎です。



*1 「竜門雑誌 第519号 第118-1151頁 昭和6年12月 社会事業団体催故渋沢子爵追悼講演会」 渋沢栄一伝記史料 第57巻 p.798-799
*2 「東京商工会沿革始末（東京商工会残務整理委員編纂）第10-11〔明治25年5月〕」 渋沢栄一伝記史料 第12巻 p.280-281
*3 「竜門雑誌 第498号・第113-117頁 昭和5年3月 青淵先生説話集 松平楽翁のこと々も」 渋沢栄一伝記史料 第49巻 p.133-136
*4 「竜門雑誌 第489号・第116頁 昭和4年6月 楽翁公百年祭にて 青淵先生」 渋沢栄一伝記史料 第49巻 p.129-132